

皮膚科のトリビア

176

浅井 俊弥
Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

〒240-0013 横浜市保土ケ谷区帷子町1-14

<http://www.asai-hihuka.com>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaで
もとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったこと
から「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」
となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉
として定着している。

本欄は、小誌編集委員の浅井先生が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、
連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第82回日本皮膚科学会東京支部総会から

平成30年12月1日

5 cm以上の顔の血管腫は MRIを行うこと

顔面の大きな血管腫は後頭蓋窩の先天奇形を伴うことがあり、PHACE症候群と呼ばれる。その目安は5 cmほどで、MRIを施行すること。PHACE症候群は以下の病態の頭文字からつけられた。P: posterior fossa anomaly(後頭蓋窩の先天奇形), H: hemangioma of the face and neck(顔面の乳児血管腫で平坦なplaque typeが多い。Sturge-Weber症候群のport wine stainとは異なる)。A: arterial anomaly(脳血管の狭窄・閉塞・拡張・蛇行)。C: coarctation of the aorta(大動脈縮窄症、心奇形)。E: eye anomaly(眼球の奇形、目の血管腫、虹彩、網膜、視神経の低形成・萎縮)。これに、S: sternal cleft(分離胸骨)を加えることもある。

一言コメント

「1:9で女兒に多いが遺伝的背景は不明。血管腫は左片側が43%と多く、右が29%、両側が27%。血管腫自体はプロプラノロール内服で消褪する。顔面の血管腫の20%に合併するとのことだが、それほど多くはないような気がする。」

●第82回日本皮膚科学会東京支部総会から

平成30年12月1日

TAFRO症候群と キャスルマン病の違い

TAFRO症候群は2010年にTakaiらにより血小板減少(Thrombocytopenia)、全身性浮腫/胸水/腹水(Anasarca)、発熱(Fever)、骨髓細網線維化(Reticulin fibrosis)、臓器腫大/肝腫大/脾腫/リンパ節腫大(Organomegaly)を呈した3症例の報告が最初で、病態の各頭文字を取って名づけられた。リンパ節病理像はキャスルマン病と類似するが、多クローン性高ガンマグロブリン血症はまれで明らかなMタンパクは認めないこと、血清LDHが増加することはまれで、血清ALPが高値を呈する例が多いこと、肝脾腫やリンパ節腫大も軽度なことなど、臨床的な違いもある。IL-6やVEGFなどのサイトカインが炎症や血管透過性を誘導していると考えられている。

一言コメント

「50歳代男性の報告で、皮膚症状は胸腹部に多発する糸球体様血管腫だった。VEGFの関与が疑われるが、クロー・深瀬症候群とは病態が異なる。頭文字症候群は知らない疾患がたくさんあって、ついていけなくなった。」

●第13回鎌倉市医師会学術講演会から

平成31年1月18日

紙幣状皮膚=Paper money skin
になった

肝障害に伴う皮膚病変として有名な紙幣状皮膚は、Dollar skin(Dollarscheinhaut)と呼ばれてきたが、海外の文献などでは paper money skinという症状名を使うことが多い。本邦では古くからPoikiloderma vasculareも用いられていたが、これも同じ症状を表している。Erwin KuntzのHepatologyの教科書には、好発部位として頸部から前胸部にかけてと頬、耳後部、手背、手指と書かれている。

一言コメント

「上腕外側の病変であるイメージが強いが、紫外線老化と混同しているようだ。血管拡張が大事な所見だと思うが、原著を読まないとはっきりしない。」

●相模原市内科医会・小児科医会合同講演会
から

平成31年3月12日

Vaccine Hesitancyとは

2019年1月、WHOは「世界の健康に関する10の脅威」を発表。その中の1つにVaccine Hesitancyがある。Vaccine Hesitancyとは、ワクチン接種の機会が提供されているにもかかわらず接種を先延ばしにしたり拒否したりすること、と定義されている。原因は複雑で時期や地域、ワクチンの種類によって異なるが、その主な理由に挙げられたのが、以下の“3Cs”である。Confidence：予防接種に対する信頼（ワクチンの有効性、安全性、ワクチンメーカーや国のシステムに対する信頼の有無）、Complacency：自分は感染しないという独りよがりの安心感、Convenience：ワクチン接種に対する受けやすさ、ないし障壁。

一言コメント

「日本でも『VPDを知って、子どもを守ろうの会』がVaccine Hesitancyの解決のために活動している。医師はもっとも信頼のおける予防接種の情報提供者であり、医師の説明やかかわり方で保護者や被接種者の考えを変えることができるということ。なるほどと思った。」

●横浜市西部地区皮膚科セミナーから

平成31年3月23日

イヌのアトピー性皮膚炎治療薬

イヌのアトピー性皮膚炎治療はヒトより進んでいるという話題。オクラシチニブ(商品名アポキル[®]錠)：JAK阻害薬で2016年に認可、ロキベトマブ(商品名サイトポイント[®])：抗IL-31抗体で2019年に認可。そのほかインターフェロン(商品名インタードッグ[®])とシクロスポリン(商品名アトピカ[®])も2005年から使用されている。

一言コメント

「JAK阻害薬と抗IL-31抗体はいずれもヒトではまだに治験中と聞いている。獣医学領域のほうが先に行っているとは知らなかった。」

●第35回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術
大会から

平成31年4月21日

protein contact dermatitis
による手湿疹

2018年に出た日本皮膚科学会による手湿疹の診療ガイドラインの話題。発症機序による分類として、刺激性接触皮膚炎、化学物質によるアレルギー性接触皮膚炎、蛋白質接触皮膚炎(protein contact dermatitis)、アトピー型手湿疹の4つがある。これらのうち、protein contact dermatitisとは皮膚に触れたアレルゲンに対する即時型アレルギーを主な発症機序とする手湿疹を指す。発症初期の症状は接触部位の膨疹と痒みだが、膨疹発作や掻破を繰り返すと次第に紅斑や鱗屑、掻破痕など湿疹の皮疹を伴うようになり、慢性期になるとアレルギー性接触皮膚炎と同様の症状を呈するが、アレルゲンと接触した際には即時型の膨疹や痒みが出現するというものの。

一言コメント

「魚やフルーツを扱う職業性の手湿疹の一部はこのタイプとのこと。名称からは即時型アレルギーが関与しているというニュアンスは伝わってこないが、覚えておくことにする。」